

# 使徒の働き

福音のムーブメント



# 目次

- I. はじめに
- II. 使徒 4:1-22 福音の大胆さ
- III. 使徒 4:23-31 大胆さへの祈り
- IV. 使徒 4:32-37 一つの信仰 一つの家族
- V. 使徒 5:1-11 アナニアとサツピラ
- VI. 使徒 6:1-7 選ばれた奉仕者
- VII. 使徒 6:8-15, 7:51-60 ステパノの逮捕
- VIII. 使徒 8:1-25 教会を荒らすサウロ
- IX. 使徒 8:26-40 エチオピア人の宦官
- X. 使徒 9:1-20 サウロの回心

はじめに

# はじめに

使徒の働きは、神の恵みが世界に溢れ出すストーリーです。この書において、福音の広がりほど顕著なものはありません。イエスは、福音が地域を超えて広まっていくことを約束しました。使徒の働きはイエスの死と復活の知らせが、エルサレムにいた弟子たちから、ユダヤ、サマリア、そしてローマ帝国の首都へと広がっていく様子を追っています。

さまざまな人々に福音を伝え続けることで、人々が集まり、教会が生まれ、さらには世界へ宣教するために人々を送り出されていきました。使徒の働きは、イエスの復活がいかにすべてを変えたかを記した歴史的な書物なのです。

神は福音の拡大の中心にいらっしゃいます。神は福音のメッセージの中心におられ、聖霊を通し、福音の拡大に責任を負っています。地理、民族、文化、言語、性別、富、迫害、弱さ、苦しみ、病気、投獄などの大きな障壁があるにも関わらず、福音は神の力によって広がっていきました。

これらの障壁の多くは難攻不落のように見受けられ、福音が社会の新しい層に伝えられると、暴動が起きました。しかし、神の救いの力が及ばない人はいませんし、贖いの恵みが必要な人もいません。

## 大きなストーリーの中に位置づける

使徒の働きは、この新しいクリスチャンたちの活動が、マイナーな宗派ではなく、神の救済計画の頂点にあることを示しています。旧約聖書では影にしか見えなかったものを、今、神はイエス・キリストを通してより完全に明らかにしたのです。使徒の働きの主旨は、見習うべき、あるいは避けるべき人間の見本を示すことではありません。むしろ、イエス・キリストによって成就された神の御業と、聖霊の力によっていかに教会が生まれたかを、繰り返し私たちに思い起こすように呼びかけています。福音の拡大は、旧約聖書や福音書を通して神が行ってきたことの集大成なのです。使徒の働きは、神がすべての人々に祝福を注ぐ偉大な源であることを明らかにしています。悔い改める機会さえも、神からの贈り物なのです。



福音の大胆さ

# 使徒 4:1-22

# 使徒 4:1-22

## 福音の大胆さ

### 聖書箇所

使徒 4:1-22

### 大きな目的

初代教会は、福音を守り立証する中でイエスに忠実に従い、反対や迫害の中でも従順であり続けました。

### 概要

使徒4章から9章は、イエスの昇天と使徒パウロの回心を結びつけています。この時期に、キリスト教の思想や信仰が確立され、教会という集団が世界的なムーブメント（運動）へと発展していきました。

ヨハネとペテロは祈るために神殿に入りましたが、奇跡に関わることとなり、これが宗教エリートたちの注意を引きます。

### サドカイ人

サドカイ人は、聖書の最初の5書（創世記から申命記まで）のみを信じていました。彼らは、自分たちが神の選民であることは信じていましたが、復活は信じていませんでした。これが、復活のことをしきりに語っているペテロやヨハネに彼らが腹を立てた理由の一つです。サドカイ人は、自分たちの地位と血筋を抛りどころとしていました。

### パリサイ人と大祭司

パリサイ人と大祭司は、旧約聖書のすべての書物と、死者の復活を信じていました。彼らは特に律法を遵守することに関心があり、モーセが記した律法に、さらに613の律法を追加することさえしました。パリサイ人と大祭司は、自分たちが律法を守ることができることを抛りどころとしていました。

## 観察と意味

1. この箇所でも繰り返して出てくる人物は誰ですか（ルカ 3:2、ヨハネ 8:13-14、マタイ 26:3）？なぜルカは彼らの名前を挙げたのだと思いますか（使徒 4:6）？
2. ペテロとヨハネはなぜエルサレムの指導者たちとトラブルになったのですか（使徒 4:1-12）？ペテロとヨハネはどんなトラブルに巻き込まれることになりましたか（使徒 4:13-18）？
3. ペテロがイエスを「要の石」と言ったことには、どのような意味があるのでしょうか（使徒 4:11）？要の石とは何ですか（イザヤ 28:16、ローマ 9:32-33参照）？
4. ペテロとヨハネは、エルサレムの指導者たちの脅しにどのように応答しましたか（使徒 4:19-20）？なぜこのような応答をしたのでしょうか？なぜエルサレムの指導者たちは、彼らの有罪を証明することも、彼らに罰を与えることもできなかったのですか（使徒 4:21-22）？エルサレムの指導者たちの心境はどのようなものだったのでしょうか？

## 適用

- 私たちがイエスに従う時、周りの人たちとの間にどのような摩擦が生じる可能性がありますか？
- あなたはさまざまな反対に直面して、どのように応答してきましたか？
- 福音と、ペテロとヨハネの例は、反対に対処する私たちをどのように励ましてくれますか？

**神は聖霊を通し、  
要の石であるイエスの姿へと  
一人一人の信徒を整え、形作るために  
働いています。**

大胆さへの祈り

**使徒 4:23-31**



# 使徒 4:23-31

## 大胆さへの祈り

### 聖書箇所

使徒 4:23-31

### 大きな目的

神は創造、贖い、そして宣教において主権をお持ちです。このことは、私たちの祈り、特に反対や困難の真っ只中にある時の祈りの基盤となるでしょう。

### 概要

ペテロとヨハネが足の不自由な人に行った奇跡の結果、彼らはパリサイ人の前に連れて行かれ、尋問を受けました。ペテロとヨハネは釈放されるとすぐに自分たちのコミュニティに戻ってすべてを報告し(23節)、コミュニティは共に主の前に声を上げました(24節)。

ペテロとヨハネはどのような問題に直面しても、それが神の定めた計画に従っていることを理解していました(使徒 4:24-25、28)。神は、苦しみから逃げれば良い、とはしませんでした。むしろ、その苦しみの中で彼らを成長させ、成熟させていたのです。神は、ペテロとヨハネが努力して苦しみをコントロールするようにと、困難を許したのでもありませんでした。むしろ、ご自分の計画と目的を信頼するようにと、彼らを招いていたのです。迫害を通して、神はペテロとヨハネの安心安全を揺るがし、彼らをコミュニティへと導きました。これらのことから、私たちは2つのことを学ぶことができます。

1. **苦しみは、私たちの心の本当の状態を表面化させます。**
2. **苦しみは、私たちが本当に信じている神学を明らかにします。**

苦しみの中で、2種類のよくある対処法に直面します。

1. **恐れ**は、苦しみを避けて、逃げようとします。
2. **プライド**は、苦しみをコントロールし、痛みを和らげようとします。

どちらの対処法も、イエス・キリストへの信仰や信頼を必要としないので、福音の応答ではありません。

「現代社会の闇は、クリスチャンさえも無神論者のように変えてしまうことです。一体どのようにしてでしょうか？この世が必要なものをすべて提供し、私たちが神について考えたり、神を必要とすることなく、自動操縦モードで暮らせるようにすることによってです。私たちは、オンラインで購入した商品が玄関先に届くのは当たり前だと考えます。現代のライフスタイルを実現するために、私たちは物流、人的エネルギー、天然資源を消費することに慣れきっています。不自由のない快適な暮らしも、世界は確実により良い未来に向かっていているという感覚も、膨大な数の労働者によって支えられているのです。」

マーク・セイヤーズ「A Non-anxious Presence」

## 観察と意味

1. 使徒たちは祈りの中で、神の主権をどのように表現していますか？これらの描写は、詩篇146:6と詩篇2:1-2から引用されています。これらの引用は、彼らのいる状況への姿勢をどのように形成したのでしょうか？
2. 詩篇2篇にある「油注がれた者」がイエスを指している、どのようにして分かるのでしょうか(26節)？
3. 詩篇2篇によると、神の主権は福音においてどのように捉えられていますか(27-28節)？
4. 私たちは、神の主権があれば、神の使命が円滑に達成される、と思うかもしれませんが。使徒たちは、神の使命のために働いているにもかかわらず、なぜこれほどまでに反対に遭ったのでしょうか？

## 適用

- 苦しみや反対に対し、恐れ(避けるために逃げる)またはプライド(痛みをコントロールし緩和しようとする)で対処する誘惑にどのようにして陥ってしまうか、例を挙げて話してみましよう。この聖句にある、祈る教会の例から、あなたはどのような励ましを受けることができますか？
- あなたの祈りの生活はどのような状態ですか(例:どんなことをよく祈りますか、または祈りません)?あなたの祈りの生活は、神と宣教に対するあなたの心の姿勢について、何を明らかにしていますか？
- 神に向かって祈る時や、宣教のために祈る時に、神の主権があなたの祈り方を形作ると、どのようなことが起こるでしょうか？

**イエスは、誰も勇気が出ない時に立ち上がり、私たちの真のゴリアテ(罪)を打ち破りました。イエスは、恐れやコントロールで応答することなく、すべてを成し遂げました。**

一つの信仰 一つの家族

**使徒 4:32-37**

# 使徒 4:32-37

## すべてを共有する

### 聖書箇所

使徒 4:32-37

### 大きな目的

霊に満たされたエルサレムの教会は、主イエスの復活を信じる一つの信仰を共有していました。その信仰は、一つの家族として生活を共にし、お互いを愛し合うことによって証明されました。神の栄光は教会を通し、目に見える形となったのです。

### 概要

ペテロとヨハネが逮捕、釈放された後、イエスに従う者たちは祈りの時を持ちました(使徒 4:23-31)。この箇所は、信者たちの一致が強まったことを描写しています。

彼らが心を一つにし、寛大な行いを通じて互いに仕え合い、仲間の中の貧しい人々を養った、ということを知ることができます。これらの美しい行為は、神の御国が地上に存在するとはどういうことなのか、イエス・キリストが私たち一人ひとりのために注いでくれた愛と犠牲に倣うとはどういうことなのか、を私たちに教えてくれます。

使徒4:32-37は、使徒2:42-47を反映したものです。イエス・キリストに従い、聖霊に満たされた結果、人々は復活を宣べ伝えるだけでなく、神の善を証しするような行いをするようになりました。ペテロとヨハネの逮捕と釈放の後に、この箇所が起きているのは偶然ではありません。この箇所は、信徒たちに強くあり続け、信仰を実践して生きるように、と呼びかけています。彼らは、自分の財産を持つ必要がないことを知っているからこそ、それができたのです。人生の状況に関係なく、自由をもって人に仕えることができました。イエス・キリストを信じた人々は以下のことを分かち合いました。

- **一つの信仰**：心と意思をもって分かち合いました
- **一つの家族**：すべてのものを共有しました



## 観察と意味

1. これらの箇所と使徒2:41-47には、どのような共通点と相違点がありますか？
2. 信じた大勢の人々が「心と思いを一つにして」(32節前半)いたとルカが記していますが、どういう意味でしょうか？
3. なぜ、だれ一人自分が所有しているものを自分のものと言わなかったのでしょうか(32節後半)?何かを「所有する」ことと、何かを「自分のもの」とすることの違いは何ですか？
4. 使徒たちが主イエスの復活を証したことには、どのような意義がありましたか(33節前半)?

## 適用

- 教会コミュニティの中でお互いにケアし合うとは、どのようなことだと思いますか？
- 困っている人を助ける正しい理由は、何であるべきでしょうか？
- もし神がすべてのものの真の所有者であり、私たちもまた神に所有されているなら、私たちは教会でどのように人々に仕え、ケアしていけるでしょうか？

**信徒たちの自発的な分かち合いは、  
旧約聖書の理想である「あなたのうち  
には貧しい人がいなくなるであろう」  
ということばを現実にしました。**

(申命記15:4-11参照)

アナニアとサツピラ

# 使徒 5:1-11

# 使徒 5:1-11

## アナニアとサツピラ

### 聖書箇所

使徒 5:1-11

### 大きな目的

神は聖霊を通して教会に力強く臨在しているので、私たちはキリストのからだ(教会)をどのように取り扱い、そこでどう生きるかを真剣に考える必要があります。

### 概要

アナニアとサツピラの記録は、新約聖書の中で最も心をかき乱される箇所の一つです。この箇所は、神にとって一致がいかに不可欠であるか、そして、教会の一致を脅かすような欺きを神がいかに深刻に受け止めているかを明らかにしています。ありがたいことに、ほとんどの人はアナニアとサツピラのように、罪への裁きを即座に受けることはありません。

私たちが確信できるのは、罪は必ず裁かれるということ、そして、イエスの十字架での贖いの犠牲がなければ、罪の結果は必ず死であるということです(ローマ 6:23参照)。この聖句を読む時、アナニヤとサツピラを罰した神は、御子を十字架につけることを企てた者にさえ恵みを与えるあわれみ深い神であることを忘れてはなりません(使徒 2:23、37-39、3:13-20を参照)。

ルカは、アナニアとサツピラが収益の一部を「自分のために取っておき」と書いていますが(2節)、これは秘密裏に不正を行ったことを意味しています。ルカは、アナニヤの心が「サタン」に奪われたこと(3節)と、コミュニティが「御霊」によって証しのために満たされたことを対比しています(使徒 4:31参照)。

アナニヤの罪は嘘、つまり自分の行いを誇張したことでした。アナニアは教会に何も献げなくてもよかったのです(4節)。その代わりに、アナニアはコミュニティを欺くことを選んだのです。アナニアの行動は、「大きな恐れ」をもたらしました(5節)。主への恐れは、使徒の働きに頻繁に出てくるテーマです。それは「神への畏怖と尊敬」(使徒 2:43、10:2、13:26参照)または、「神が不快感を表していることや懲罰への恐れ」(使徒 5:11、16:29、19:17 & ヘブル 12:7-10参照)を意味しています。

## 観察と意味

1. アナニヤとサツピラは実際、何について非難されたのですか？
2. 彼らは何のために裁かれ、その裁きは彼らの心について何を明らかにしたのでしょうか？
3. アナニアが教会を欺こうとしたことは、なぜ聖霊に対する罪なのでしょう(3-4節)？
4. ルカは、「これを聞いたすべての人たちに、大きな恐れが生じた」と述べています(5節、11節参照)。この「恐れ」とは、何を指しているのでしょうか？この「恐れ」は、何によってもたらされたと思いますか？

## 適用

- あなたが教会の中で様々な方法を通して奉仕し、生活していることについて考えてみてください。あなたの態度は、アナニヤとサツピラにどのような点で似ていますか？
- その態度になる過程で、どのような嘘を信じてきましたか？キリストと教会に対するあなたの間違った見方をどのように明らかにしていますか？
- 聖書は「主を恐れることは知恵の初め」(箴言 9:10)と語っています。使徒5章の「神を恐れる」ということばは、どのように神の恵みとあわれみを思い起こさせますか？神への畏敬の念は、あなたが教会で仕え、生活する方法をどのように形作りますか？

**イエスは、私たちの罪が軽かったので、私たちのために死ぬことを選んだのではありません。私たちの罪は計り知れないものでした。しかし、イエスの私たちに対する愛はるかに大きかったので、死ぬことを選んでくださったのです。**

選ばれた奉仕者

# 使徒 6:1-7



# 使徒 6:1-7

## 選ばれた奉仕者

### 聖書箇所

使徒 6:1-7

### 大きな目的

教会が成長するにつれ、ニーズも増えていきました。宣教が健全に継続し、たましいが勝ち取られるために、キリストのからだはそれらのニーズに対処し、一層力を入れていく必要がありました。

### 概要

エルサレムのギリシャ語を話すユダヤ人クリスチャンから始まり（使徒 6:1-7）、福音はますます多くの人々に宣べ伝えられました。サマリア（使徒 8:4-25）、エチオピア人（使徒 8:26-40）、神を信じる異邦人（使徒 10:1-48）、そしてアンティオキアの異邦人（使徒 11:19-30）にも告げ知らされたのです。これらはすべ

て、地の果てまで行くことになるパウロの宣教のための土台作りとなりました。

エルサレムの教会には、ギリシャ語を母語とするユダヤ人クリスチャンと、ヘブル語を母語とするパレスチナ出身のユダヤ人がいました。ヘブル語を話すユダヤ人は、毎日の食糧配給の際に、ギリシア語を話すユダヤ人のやもめたちをうっかり見落としていたようです。

ルカが大勢の「祭司たち」（7節）に言及していることはとても重要です。今まで福音に猛烈に反対していたのは彼らでした。このことは、神の愛がいかに広く深いものであるかを私たちに思い起こさせます。クリスチャンを憎んでいる人たちにも、福音は宣べ伝えられるべきなのです。イエスの生涯において、祭司たちとパリサイ人たちは最大の敵対者でした。彼らはイエスの死を煽り、影響を与えました。イエスはこれらの宗教指導者に対して最も強い言葉を残しました。使徒の働きに見られる彼らのイエスへの信仰は、御子に敵対する人々への福音の力と神の恵みを証明するものです。

使徒の働きを読み進めていくと、ステパノとピリポは存在感を増していきますが、他の5人についてはこれ以上言及されていません（5節）。

## 観察と意味

5. この箇所では何が問題だったのでしょうか？ギリシア語を話すやもめたちは「毎日の分配においてなおざりにされていた」のでしょうか(1節)?
6. 12人の使徒が「神のことばを後回しにして、食卓のことに仕えるのは」(2節)、なぜ良くなかったのでしょうか？ローマ 12:4-8に出てくる役割の中で、特に尊敬に値するのはどれですか(1 コリント 12:12-26参照)? 教師は教えるだけでよいのでしょうか?
7. 誰が7人を選びましたか？最初の執事であるこの7人を選ぶ時の条件は何でしたか(3-7節)? この箇所は、私たちの奉仕と福音の使命との関係について、どのようなことを明らかにしていますか?
8. 「祭司たちが大勢、信仰に入った」(7節)とは、どういう意味ですか?

## 適用

- イエスはしばしば、謙虚さや仕えるリーダーシップということに焦点を当て、亡くなる際には、比類のない模範を示しました。マルコの福音書 10:42-45を読み、あなたの奉仕についての理解をどのように助けてくれるかを考えてみましょう。奉仕することに関して、あなたの心はどのような点で福音を实践できずにいますか?
- 教会の中でのニーズや、福音宣教のためのニーズをいくつか挙げてみましょう。あなたが積極的に貢献できる分野はありますか?
- 謙虚さは、神に、神の力に、神の目的に、神の備えてくださるものに完全に頼ることができるかどうかにかかっています。謙虚さは自己依存を減らし、神のご性質に依存することを増します。教会で奉仕する時、あなたはどのようにして「自己依存」に傾いてしまいますか? より大きな自信を持って奉仕するために、神のどのようなご性質について深く考える必要がありますか?

ステパノの逮捕

**使徒 6:8-15, 7:51-60**

# 使徒 6:8-15, 7:51-60

## ステパノの逮捕

### 聖書箇所

Acts 6:8-15, 7:51-60

### 大きな目的

キリスト教会が迫害の時期に入った時、ステパノのような個人が自分の召しを超え、御国のために命を捨てるようになりました。

### 概要

ステパノは、教会のギリシャ語を話すやもめの世話をするために弟子たちによって選ばれた7人の一人でした(使徒 6:5)。使徒たちと同じように、ステパノは困っている人々に奉仕するだけでなく、福音を宣べ伝えました。宗教指導者たちの多くは、しるしと不思議を行い、知恵をもって語るステパノに腹を立てました。

やがて彼らはステパノを最高法院に引きずり出し、神への冒瀆の罪で不当に訴えたのです。ステパノは弁明の中で、旧約聖書でイスラエルが繰り返し不従順であったことを、現在の諸国がメシアを拒絶していることと比較しました。これに怒った最高法院の党員たちは、彼を町から追い出し、石打ちの刑に処しました。ステパノの死に際の際の祈りは、イエスが十字架上で祈った祈りと呼応しています(使徒 7:59-60)。ステパノの殉教をきっかけに、教会に対する迫害の時代が始まりました(使徒 6:8-10)。

使徒の働きに書かれている最悪の迫害の中で、後に神に用いられて初代教会の誰よりも広く福音を宣べ伝えることになる人物、**タルソのサウロ**(58節)が一瞬登場します。ここでは、サウロ(後のパウロ)に対する、またサウロを通して示される、神の究極の恵みを垣間見ることができます。神は最悪の罪人さえも見捨てません(1テモテ 1:15参照)。このことは、自分は赦してもらえない、と思っている罪人たちに希望を与えます。また、**私たちが他人を見る時に、贖いが及ばないだろうと判断してしまうことへの警告にもなっています。**

## 観察と意味

1. ステパノは、やもめに仕えるべきなのに、なぜ不思議としるしを行ったのですか (6:8)? ステパノのメッセージは、なぜ聞き手を挑発したのでしょうか (6:9)?
2. ステパノの力、説教における権威、輝く顔はどこから来ていたのでしょうか (6:10)?
3. ステパノは、反対派からどのようなことで非難されましたか (6:11)? これらの非難は、イエスが非難された罪とどのように似ていますか? 使徒の働きの中で、伝道、反対、教会の成長の間にどのようなパターンが見られますか?
4. ステパノの祈り (使徒 7:59-60) と、イエスが十字架上で祈った祈り (ルカ 23:34) を比べてみてください。これらの祈りでは、どのような点が際立っていると思いますか?

## 適用

- どのような状況で、人と人の対立を煽ったり、誰かを不当に非難したりする誘惑に駆られますか? この誘惑に負けないようにするには、どうしたらよいのでしょうか?
- あなたは今までに、やってもいけないことで非難されたり、責め立てられたりしたことがありますか? その時、どのように反応しましたか (エペソ 4:11-15と、2コリント 3:3について考えてみてください)? あなたは、ステパノが語ったのと同じような心で語りましたか (10節)?
- 見ただけでも、恵みにあふれ、聖霊に満たされ、神に従っていると分かる、そのような人に会ったことはありますか (15節)?

**イエスはすべての人に、自分を殺そうと企み、  
死を願っていた人たちにさえも、福音を宣べ伝えました。**



教会を荒らすサウロ

# 使徒 8:1-25

# 使徒 8:1-25

## 教会を荒らすパウロ

### 聖書箇所

使徒 8:1-25

### 大きな目的

救いは人の意志で操作できるものではありません。救いの賜物はイエスの贖いの業によってもたらされ、(人の功績ではなく)神の恵み深いみ心のみにかかっています。

### 概要

次の4章(使徒 8-11章)では、迫害の話題から、国境を越えて広がる福音の話題へと移行していきます。まず、福音はサマリアに到達し(使徒 1:8の成就)、最初の異文化の壁が破られます。そして、福音は異邦人へと広がっていきます。

ステパノの殉教により、使徒たち以外の全員がエルサレムから脱出することを余儀なくされます。このように信徒たちが散らばることで、宣教の働きが動き出したわけですが、サウロはこれを異端の一派と見なしました。サウロの迫害は、この動きを潰すどころか、キリスト教の信仰を数十の都市に広め、福音の前進を促進させる結果となりました。

サマリア人はユダヤ人ではないと考えられていたが、厳密には「半分」ユダヤ人でした。ユダヤ人は、サマリヤ人を神の約束から外れた存在とみなしていました。神はエルサレムの教会とサマリヤ人とのつながりを明確にするために、使徒たちが到着するまで、御霊を与えることを差し控えていたようです。そうでなければ、サマリヤ人は自分たちはエルサレムから独立した存在だと思い込んでいたかもしれません(あるいは、エルサレムの弟子たちがサマリヤ人を兄弟姉妹として神の家族に迎え入れることはなかったかもしれません)。ここで重要なのは、普段ユダヤ人が避けていたサマリヤ人も、今は御霊に満たされているということです(14-17節)。この満たしは、サマリヤ人が神の教会の一部になったことを示すものでした。ルカは改めて、信徒たちの交わりが聖霊の臨在と祝福のしるしであることを強調しています。

## 観察と意味

1. 信徒たちが散らされ(1節)、ユダヤとサマリヤに行かなければならなかったという事実には、どのような意味があるのでしょうか？(使徒 1:8、ヤコブ 1:1、1ペテロ 1:1について考えてみましょう)。
2. ピリポは、サマリヤ人にとっての聖なる山ゲリジム山の麓にある、サマリヤの中心都市セバステを訪れたと考えられます(5節)。サマリヤ人はユダヤ人からも非ユダヤ人からも嫌われ、ユダヤ人とは神に対する理解をめぐるしばしば争っていました(ヨハネ 4:20参照)。バプテスマのヨハネやイエスは、以前にもこの地域で働きをしました(ヨハネ 3:23、4:4-42)、ピリポは何を行ってサマリヤ人の関心を引いたのでしょうか(6節)？
3. 異教徒もユダヤ教徒も魔術を行っていました。魔術の目的として、病気を治すこと、肉体的な祝福をもたらすこと、人を呪ったり傷つけたりすること、悪霊から身を守ることなどがありました。また、魔術師の中には、未来を知ることができるかと主張する者もいました。申命記18:9-13を読み、魔法と魔術について、ユダヤ人の視点から他にどのような発見があるかを話し合みましょう。
4. ペテロは、シモンが聖霊を受けるためにお金を差し出したことに対し(18-19節)、「おまえは、このことに何の関係もないし、あずかることもできない」と言いました(21節)。これは、旧約聖書で「相続地の割り当てがない」ことを意味します(申命記 14:27参照)。これらのことばは、シモンの心の状態について何を示しているのでしょうか？

## 適用

- 教会の歴史は、エルサレムとクリスチャンへの迫害にさかのぼることができます。迫害を受けながらも教会が成長し続けたことは、あなた自身や教会についての見方にどのような影響を与えますか？
- 教会の歴史とクリスチャンの迫害は、今日の世界で迫害を受けている教会に対するあなたの応答にどのような影響を与えますか？
- シモンは、使徒たちの働きによって聖霊の働きを目の当たりにし、お金を稼ぐために聖霊を欲しました。あなたはどのような状況で、御霊の働きを間違ったかたちで求めてしまうのでしょうか？福音は、あなたの偶像崇拝的な欲望にどのように語りかけるのでしょうか？

エチオピア人の宦官

**使徒 8:26-40**



# 使徒 8:26-40

## エチオピア人の宦官

### 聖書箇所

使徒 8:26-40

### 大きな目的

イエスは、被造物を贖い、回復させ、敵意と差別を取り除くために苦難を通ったしもべです。福音は、すべての国と国民が来て、自分のアイデンティティーをイエス・キリストに置くように招いています。

### 概要

主の天使は、ピリポに宦官を捜しに行くように指示します (26節)。神が気にかけている宦官がいたということです。この男性は生まれつきの宦官なのか、それとも自ら選んで宦官になったのかは分かりませんが、家族も、性的関係も持たない人でした。

宦官は恥を感じていたのかもしれませんが。

- 外見上は宮廷の役人
- 内面では、葛藤があったことでしょう

ルカは、この宦官がイザヤ書53章を読んでいることを明記しています(32-33節)。宦官はこの箇所 (イザヤ 53:2-3、7-8) に登場する人物に自分を重ねていたのしょう。「預言者はだれについてこう言っているのですか。自分についてですか。それとも、だれかほかの人についてですか」と問いかけているからです (34節)。この時、聖書の中で最も美しい箇所の一つを読むことができます。ピリポは宦官に、預言者はイエス・キリストについて語っているのだと告げます (35節)。

### イエス・キリストは

- 自らの選択によって宦官 (独身) となりました
- 父に完全に献身しました
- 独身者としての人生を送りました
- 恥と悲しみを負いました
- 羊のように屠り場に引かれていきました

ピリポは宦官の目を見て「イエスがあなたのためにくださったのです！」と伝えました。この箇所を読むと、ピリポが良い知らせを伝えたことで、宦官の希望が高まっているのが感



じられます。宦官はもう一つ質問します(36節)。「私がバプテスマを受けるのに、何か妨げがあるでしょうか」と。馬車が停車します。ピリポは宦官を水の所まで連れて行き、洗礼を授けました。宦官が水から上がると、古いものは消え、新しいものがやってきました。彼は完全に知られ、完全に愛され、完全に将来の栄光が保証されたのです。

福音はすべての言語と民族を招いています。

もしあなたがイエスを自分の救い主、主として信仰を置いたなら、あなたは復活の時に新しい体を受けとります。

もしイエス・キリストに身を委ねるなら、あなたはイエスのからだ、すなわち教会に歓迎されています。

もし、まだそうしていないなら、あなたの希望と信仰をイエス・キリストに置いてください。

## 観察と意味

1. 聖書の時代において、宦官であるとはどのようなことだったのでしょうか(申命記 23:1、マタイ 19:12参照)?
2. ピリポが宦官に手を差し伸べ、良い知らせを伝えるように導いたのは誰ですか(29節)?宦官は、どのような箇所を読んでいたか(30節)?
3. イザヤ書のどの部分が、宦官を洗礼へと導いた可能性があるのでしょうか(イザヤ 53参照)?イザヤ書によると、神に身を捧げた宦官が相続するものは何ですか(イザヤ 56:3-8)?
4. イザヤのメッセージは、苦しみ、嘆き、恥を経験した人々をどのように慰めますか?

## 適用

- クリスマンになる前に、あなたは自分自身のどのようなラベル (イメージ) やアイデンティティーを誇りにしていましたか？ またそれによって自分を定義していましたか？ あなたは、これらの古いラベル (イメージ) のうち、どれと葛藤し、どれにしがみついていますか？ 日頃から、福音の内にあるアイデンティティーを互いに思い起こさせる教会文化を築くために、どのような実践的ステップを踏めば良いでしょうか？
- 伝道は御霊によって導かれるものであり、自分の力で成し遂げられるものではないことを、どのような状況で忘れがちですか？
- 熱意を持って人に福音を伝えることを妨げているものは何ですか？ 大宣教命令に従うとは、あなたにとってどのようなことでしょうか？ 私たちは、大宣教命令について意識的に考えるライフスタイルを築くために、どのように互いを励まし合ったら良いと思いますか？

**贖いの御業を通し、イエスは  
神の裁きを一身に受けました。  
そして、被造物を回復させ、  
罪の影響を逆転させます。  
ユダヤ人と異邦人の間に敵意は  
もはや必要ありません。  
神の国には差別がないのです。  
私たちのアイデンティティーが  
イエスの内にある時、人間の優劣は  
取るに足らないものとなるのです。**

サウロの回心

# 使徒 9:1-20

# 使徒 9:1-20

## サウロの回心

### 聖書箇所

Acts 9:1-20

### Big Idea

私たちは、神の恵みが及ばない罪人はいない、と本当に信じているでしょうか？もし信じているなら、私たちは敵のために祈ることができます。神には救う力があり、贖うと決めた人のことをみな贖うのです。

### 概要

使徒の働きの中で、福音は民族的な壁や、地理的な壁を乗り越えるだけでなく、人間の罪という最も手ごわい壁も突破します。サウロは、イエスがご自分の教会（この箇所では「この道」と表現されています）といかに深く結びついているかを直接学ばされます。「この道」の人々を迫害することで、サウロはイエス自身を迫害していたのです。

「あなたはどなたですか」という問いに対して、サウロはこのような答えを受け取ります。「わたしは、あなたがたが迫害しているイエスである」（4節）。神の民に対抗することで、サウロは神自身に対抗していたのです。サウロはイエスが現れたことによって目が見えなくなり、その盲目によって自分の本当の姿を見ることができました。サウロは自分の無力さと弱さを認識し、謙虚に自分の盲目を受け入れます。異邦人への福音伝道をサウロに託す前に、神はサウロの宗教的熱意への依存を砕きました。謙虚な立場に立たされて初めて、サウロは福音を伝える準備ができたのです。

**神は高ぶる者には敵対し、  
へりくだった者には恵みを与える**

ヤコブ 4:6

サウロは教会の人々を殺す監督をしており、悔い改める気配はありませんでした。イエスがダマスコの道でサウロと出会ったのは、こうした行動の只中だったのです。

私たちは、誰か（自分自身も含めて）が希望のない存在だと断定してしまわないよう、注意する必要があります。神はご自分の敵に手を差し伸べ、人間の反逆を打ち破りますが、反逆者を滅ぼすことはしません。むしろ、福音を通して、神は彼らを愛し、選ばれた子どもとしての姿へと変えていくのです（使徒 9:15）。サウロは教会の敵でしたが、イエスによって神と和解され、神の使節として召されました。サウロを通し、神は全世界に語りかけていきました（2コリント 5:20）。

### 観察と意味

1. 「サウロ、サウロ、なぜわたしを迫害するのか」（4節）という、イエスの最初の語りかけのことばはどのような点で驚きなのでしょう？
2. アナニアが言った「主よ」（10節前半）という言葉は、イエスを指しています（17節）。アナニアはイエスのことばを聞いた時、「主よ、ここにいます」（10節後半）と答えました。その反応は、アブラハム（創世記 22:1、11）、ヤコブ（創世記 46:2）、モーセ（出エジプト 3:11）、サムエル（1サムエル 3:4-8）、イザヤ（イザヤ 6:8）と同じような反応でした。イエスがアナニアに与えた指示（11-12節）の中で、注目すべき点は何でしょうか？アナニアの応答のどこが問題だったのでしょうか（13-14節）？

3. 主はサウロについて、「あの人はわたしの名を、異邦人、王たち、イスラエルの子らの前に運ぶ、わたしの選びの器です」（15節）と語りました。サウロ（後のパウロ）は、このことばをどのように全うしたのでしょうか？
4. ルカは、サウル目から鱗のような物が落ちたと伝えています（18節前半）。この物理的な出来事は、サウロの霊的な盲目が克服され、今や真理を見ることができるようになったことを象徴しています。この体験の後、サウルが最初にしたことは何でしたか（18節後半）？サウロが「ダマスコの弟子たちとともに」いた間（19節後半）、何をしていたと思いますか？弟子たちは、あれほど熱心に迫害していたサウロに会い、一緒に過ごすことをどう感じたと思いますか（使徒9:1）？サウロは、洗礼を受けた後、他に何をしましたか（20節）？

### 適用

- イエスが迫害や苦しみを受ける弟子たちと一体となっていることは、あなたをどのように励まし慰めますか（使徒 9:4 参照）？



- クリスマンになる前から知っている人が信仰を持ち、キリストにある兄弟姉妹として教会に迎え入れられた時のことを覚えていますか？その時、あなたは何を感じ、どのような心配をしましたか？
- あなたは、神の恵みが及ばない罪人はいない、と本当に信じますか？もしそうなら、あなたは敵（難しい人たち）のためにどのように祈りますか？なぜ、その人たちのために祈るのが難しいのでしょうか？祈る代わりに何をしていますか？

**敵とは、あなたがどんなに愛情をもって近づいても、  
あなたのことを嫌い、誤った決めつけをしてくる人のことを指します。  
「敵」という言葉は、人のあなたに対する接し方を表すカテゴリーに過ぎません。  
私たちが誰かを「敵」として認識し名付けることをしなければ、  
その人を愛し、その人のために祈りなさい、  
というイエスの命令を見過ごしてしまうでしょう**

(マタイ 5:43-45参照)

<https://www.gracecity.jp>

